

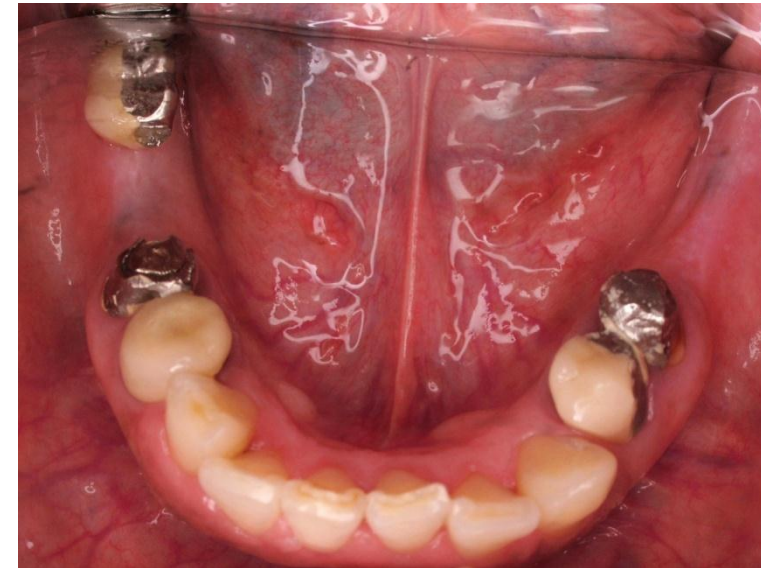
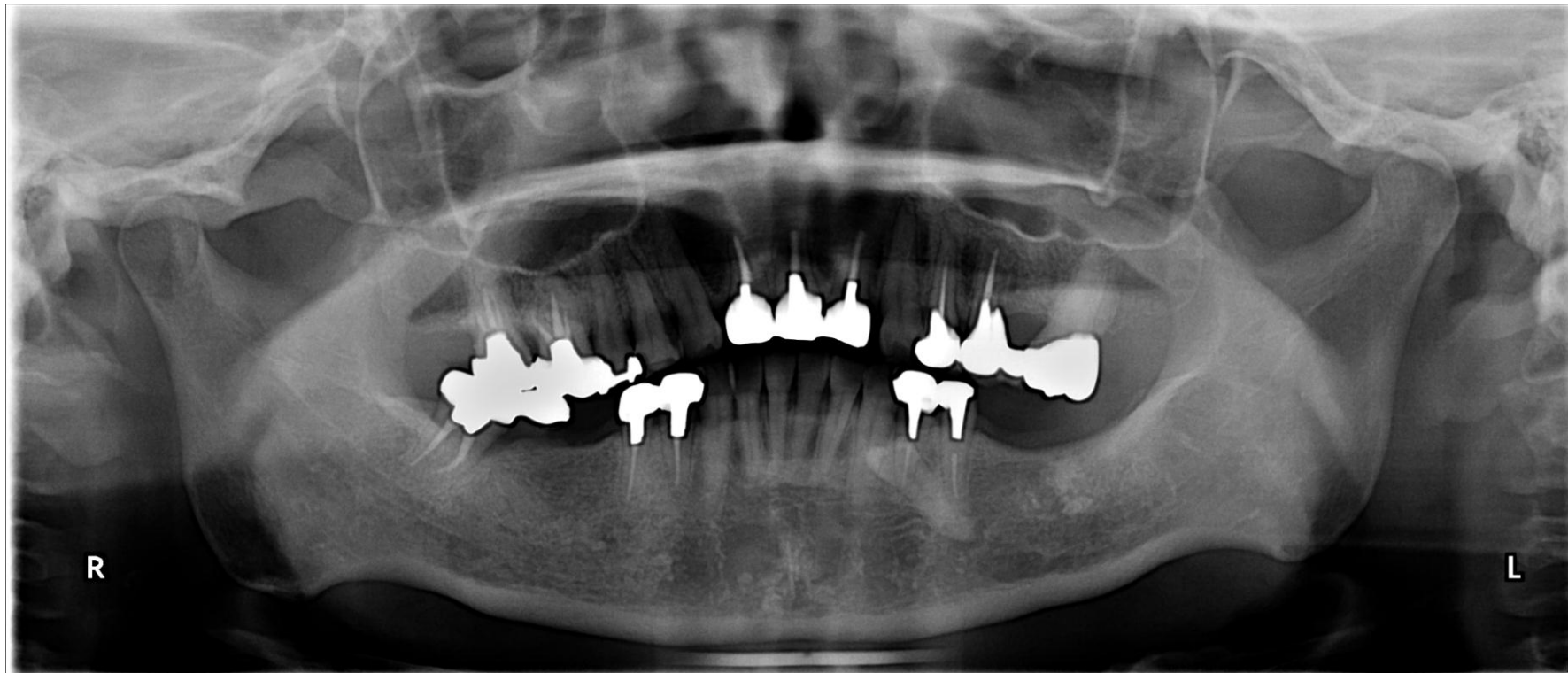
目 的

歯の欠損や歯冠崩壊により咬合支持を失っている症例では、三次元的顎位の再構成により咬合の安定を図ることが重要である。今回う蝕、咬合不正によると思われる鑄造冠破損等による歯冠部歯質の崩壊により咬合支持部位を失い、咬合の崩壊、咬合平面の不正および審美的障害を認められた症例に対し、顎位の修正を行い、前歯部の被蓋関係および咬合平面の改善とガイドの確立を目的として、三次元的に咬合の再構成を行うこととした。

症 例

患 者： 50歳 女性
主 訴： 詰め物がとれた
初診日： 平成22年1月23日
現病歴： 不適合冠・顎位の変移による歯冠部歯質の崩壊を認めるものの、そのまま放置。来院時になり咀嚼障害を覚え、来院
既往歴： 特記事項なし
職 業： 看護師

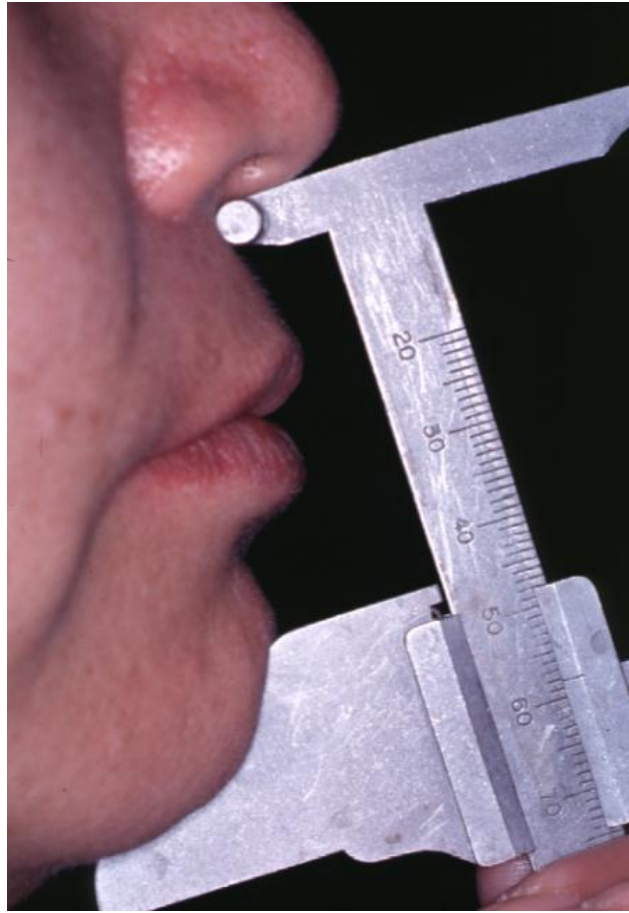
初診時口腔内写真・X線写真



解説

問題点として、差し歯の全体的な崩壊が生じています。このように全体的に崩壊が生じている場合、本来の噛む位置とはずれた状態で差し歯が入っている可能性があります。噛む位置が正しくないため、かみ合わせ由来のストレスにより過大な咬合力が生じ被せ物が壊れてしまったと思われます。

Willis法による顔面計測



瞳孔—口裂間距離: 63mm

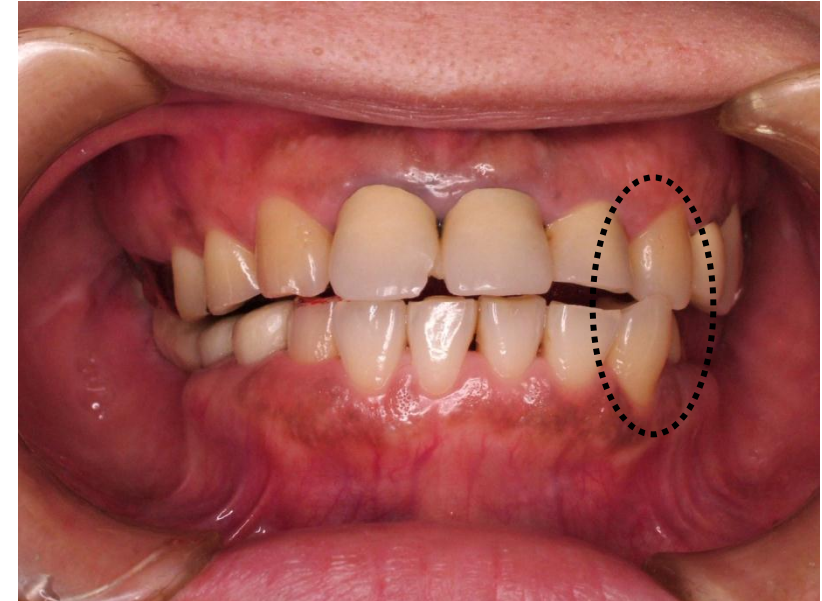
intercuspal
position



解説

Intercuspal positionで噛むと全ての歯で咬みます。

centric relation



解説

Centric relationで噛むと点線の○で囲んでいるところのみで、咬みます。

鼻下点—オトガイ底間距離: 58mm

解説

Willis法とは咬合高径(咬みあわせの高さ)を審査する方法の1つです。通常、瞳孔と口角の長さ、鼻の下と下顎の先端の長さが1:1の長さになるのが理想とされています。今回は鼻の下と下顎の先端の長さが短いため咬み合わせが低くなってしまっている状態です。

intercuspal positionとは、通常噛んでいる位置です。centric relationとは、顎の関節にとって正しい位置の事です。つまり本来の正しい咬み合わせの位置はcentric relationの位置で差し歯を作らなければならないのです。

スプリントセット時



咬合挙上



解説

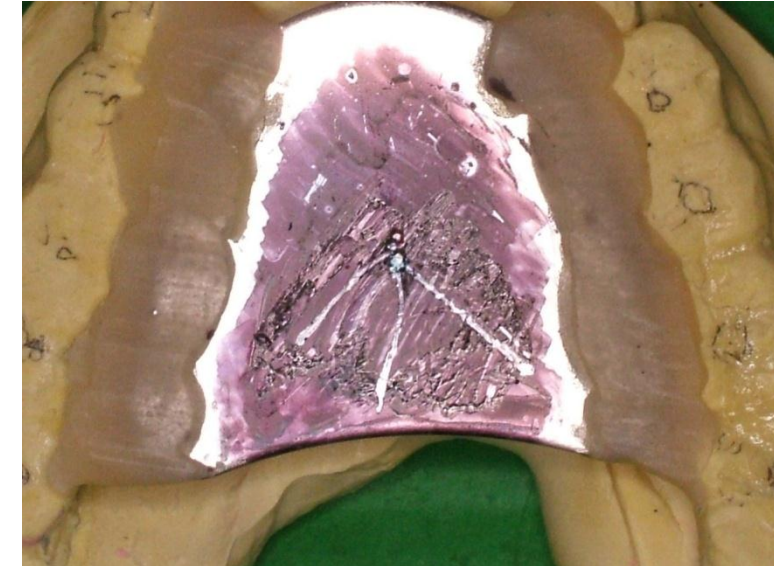
当法人グループでは、咬み合わせが悪い場合、まず第一選択として、スプリントというマウスピースを製作していきます。(詳しくはH.P.の咬み合わせ参照)

スプリント装着後調整を繰り返し、咬み合わせの治療が必要となった場合に初めて、古くなった差し歯などを外して仮り歯に置き換えます。

初期治療終了時



ゴシックアーチ



解説

上向きの矢印↑の各線が交わる部位に青と赤の点がある事で、左右のズレが無いことがわかります。

解説

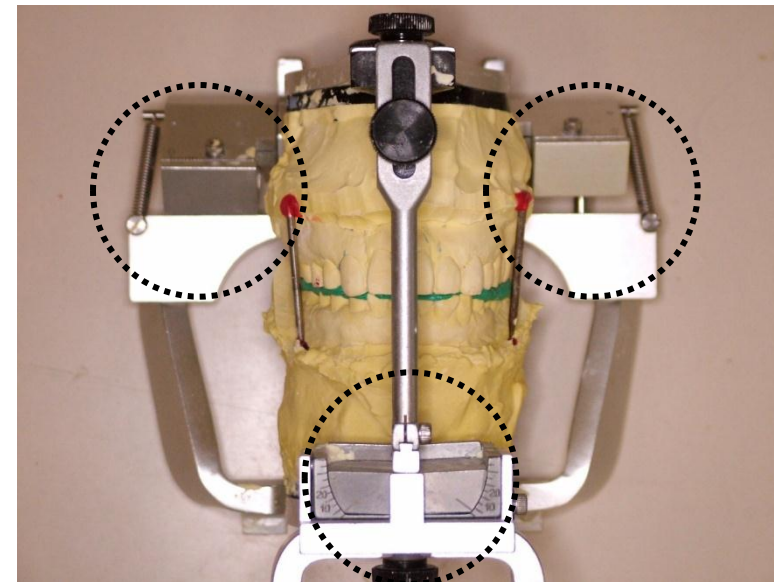
左の5枚の写真が、インプラントも含め、歯周病、虫歯などの初期治療が終了して仮り歯に置き換わった写真です。その後、咬み合わせの微調整を繰り返し行っていきます。

右の写真はゴシックアーチというもので、上顎に対し下顎の水平的なずれが生じていないかを確認する装置です。下顎は上顎に対し筋肉でぶら下がっているため、咬み合わせの処置を行い、最終的な被せ物を装着する前に行っていきます。

犬歯誘導の付与（犬歯咬頭傾斜の調整）



咬合器装着



解説

点線の○で囲んでいるところで、前歯の角度調整をします。

解説

上段の写真は咬み合わせのガイドとなる犬歯、前歯の角度を微調整しているものです。咀嚼とはただの上下運動ではありません。そのときにガイドとなってくれる歯が前歯です。

ガイドの調整が終わったら、いよいよ、最終的な被せ物に入っていきます。

下段の写真は現在の仮歯を最終的な被せ物に反映させるために、咬合器とよばれる装置に装着した状態です。

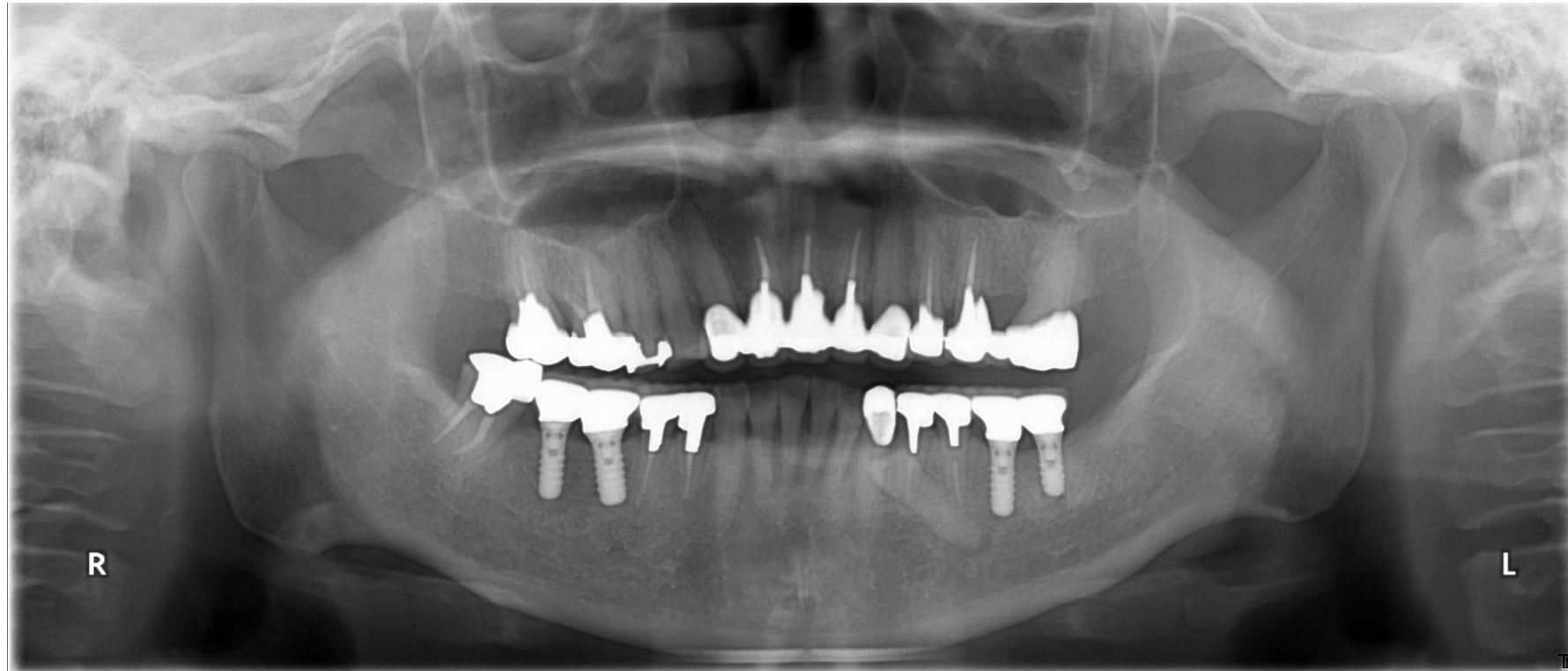
最終補綴状態



解説

上記5枚の写真が最終状態です。インプラントの被せ物も含め、咬み合わせも仮歯を反映して作製していきました。

1年リコール時（定期検診）



まとめ

歯の欠損や歯冠崩壊により咬合支持を失っている症例では、歯周環境の改善と三次元的下顎位の再構成により咬合の安定を図ることが重要となる。

今回、咬合支持が欠如し、咬合高径の低下、下顎位の偏位を認められた症例に対し、下顎位の修正を行い、三次元的に咬合の再構成を行ったことで、本症例の問題点を解決することができ、患者が満足する機能的回復が得られた。